

スクールカウンセラーだより

スクールカウンセラー：南里裕美

みなさん、こんにちは。時が過ぎるのは早いもので今年も残すところ約 1 ヶ月半となりました。前号から間があいてしまったのですが、今年最後のおたよりをお届けしたいと思います。今号より、新たに 2 つの連載を始めていきたいと思っています。1 つは、カウンセリングのことや心理学に関する記事を掲載していきたいと思っています。もう 1 つは、映画と心理学をテーマにしたものを掲載したいと思っています。どちらも、みなさんに、心の世界のことに興味を持ってもらえたらなという思いからです。楽しんでもらえればと思います。

心理学のお話：臨床心理士って何をする人？

私は、学校では「スクールカウンセラー」という肩書で仕事をしていますが、職業は何か？と問われたら、「臨床心理士です」と答えます。「臨床心理士」と聞いても、いったい何をする人なのかわかりにくいだらうなと思います。臨床心理士は、いろんなところで働いています。学校や病院、保健センター、裁判所、警察署などなど…。働いている場所によって求められる役割や仕事の内容も違うとは思いますが、私は、臨床心理士が何をする人か？と聞かれたら、次のように答えるかなと思います。「人の話を聴き、それによってその人の心を理解しようとする人です」と。私たち臨床心理士がやることは、とにかく人の話を聴くこと、そして人の話を聴くための時間と場所を確保することです。そして、聴いた話の内容や観察から、その人の心の理解を深めていきます。話をどう聴くかということや、聴いた話からどういうふうに理解を組み立てていくかは、いろんな理論や方法があるわけですが、基本的には、まずはよく聴くということが大事だと思います。それが、臨床心理士の役割であり、カウンセリングというものの基礎になっていると思います。

映画と思春期のころ～『千と千尋の神隠し』を通して～

第 1 回

私は、宮崎駿監督は思春期の子（特に女の子が主人公のことが多いですが）の心の世界や心の変化を描くのが上手だなと思います。例えば『魔女の宅急便』も『ハウルの動く城』も、少女たちが何らかの痛みを経験しながらも、親以外の大人や仲間との

関わりを通して大人に向かって成長していく姿を描き出しています。「どうして、キキは途中で魔法が使えなくなって、ジジともおしゃべりできなくなったんだろう」などとその物語の背景にある意味を考えながら観ていると、より作品を楽しむことができますし、原作者も宮崎監督も思春期の子どもたちの心の中でどんなことが起きているのかを深く理解しているんだろうなと思います。

これからは、私自身が宮崎監督の最高傑作だと勝手に思っている『千と千尋の神隠し』のお話をしていきたいと思います。『千と千尋の神隠し』は、これまで何度かテレビでも放映されているので、1度は観たことがあるという人が多いのではないのでしょうか？この作品も、少女がいろんな試練を通じて、どういうふうに進んで大人に向かって成長していくのか、その心の中で起きている変化を見事に描き出しています。

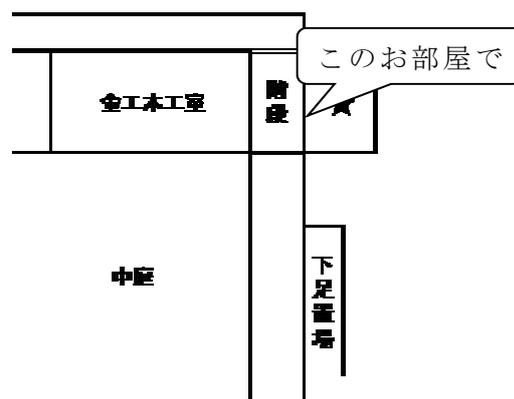
さて、この映画の主人公・千尋は、10歳の女の子です。10歳といいますと、発達心理学の言葉で言えば「前思春期」という思春期の入り口の年齢にあたります。映画の中で、千尋はさまざまな試練を与えられていくわけですが、心理学的な観点から言うと、千尋は思春期の2つの心理的な課題に取り組んでいるということができます。それは①養育者の捉え方と感じ方の変化、②養育者以外の重要な他者との関係をどう築くか（居場所の確立）です。映画の内容と結び付けて、次回以降、詳しく解説したいと思います。

★スクールカウンセリングとハートルームについて★

私は月曜日に勤務しています。相談はハートルームを使用しています。スクールカウンセリングを利用したい人は、担任の先生や話しやすい先生などに利用したいということを伝えてください。私も、校内や教室を巡回していますので、出会ったときに直接伝えてもらっても大丈夫です。特別な場合を除いて、お話ししてくれた内容の秘密は守りますので安心して相談してください。

○相談日（月曜日）

- ・11月5日、12日、19日、26日
- ・12月3日、10日、17日
- ・1月21日、28日



★保護者の皆様からのご相談も受けています★

スクールカウンセラーは保護者の皆様からのご相談もお受けしております。お子さんのことで気になることや心配なことがありましたら、お気軽にご相談ください。相談日は、毎週月曜日10時～16時です。詳しくは上述の相談日をご覧ください。

ご希望の方は、学校（担当：田中先生）にお申込みください。